

三橋昌平「沖縄と向き合った一年間」(小学校4年)
(『歴史地理教育』2017年4月号 pp. 34-39)

4年 中村美紀

<はじめに>

次の歌を聞いて、思いつくことは何ですか。「海の声」、「島唄」、「さとうきび畑」、「エイサー」。
真夏の青くて綺麗な海のイメージを持つ人や、独特な音階・音色から沖縄を思い浮かべる人もいるかもしれません。今回の実践は、この4曲を特別活動や総合的な学習の時間に演奏したり踊ったりしています。社会科が様々な時間と連携して、学習を深めていると感じたので、この実践を紹介します。

<実践内容>

この実践は千葉県の公立小学校で2015年度、1年間にわたって科目横断的にテーマを持って取り組めるということで行われたものです。実践者は4年生の発達段階を考えると動いたり歌ったりする活動と沖縄を結び付けると、子どもたちの沖縄への向き合い方が変わるのではないかと考えて行ったものです。以下、具体的に紹介します。

まず、5月の運動会でエイサー(沖縄本島に伝わる盆踊り)を踊って、児童の沖縄への興味を引き出しています。児童はエイサーの踊りと並行して、締め太鼓の作成や囃子詞を知る活動を行っています。

6月の市内音楽発表会では「さとうきび畑」の合唱と「島唄」の合奏に取り組んでいます。この時点で児童は、沖縄の音楽に興味を持ったり、「さとうきび畑」の歌詞から戦争を想起する内容をうっすらと読み取ったりしていました。また、保護者に沖縄に連れて行ってほしい、三線を買ってほしいといった発言をするなど、児童は沖縄と向き合い始めているようだと、三橋さんは感じました。

10~11月の総合的な学習の時間では、これまでの行事や学習を振り返る活動を行っていました。この活動では児童が自分の住んでいる地域と沖縄を比較したり、沖縄の魅力に気がついている感想を持ったと三橋さんは述べています。

12月には総合で発表したことをカルタにしました。ここでは、沖縄の方言や沖縄には多くの島々があることに、子どもたちは気がついたと述べています。

1月は与那国島の小学校1年生の詩『へいわってすてきだね』の絵本の読み聞かせを行って、沖縄をどう思うか考える活動を行っています。児童の持った感想としては、昔起こった戦争という悲しい出来事をなくすため、悲しい出来事をなくさめるために歌があるのかもしれないというものがありました。また、昔戦争があった沖縄が今はどのように変わったのかについて興味を持っている児童や、平和な時代に生まれたことの有難さを実感している児童も見受けられました。

2月には六年生を送る会で「海の声」の演奏と歌を発表しています。この発表後、児童の中には沖縄の存在を自分なりに感じていました。

<感想>

この実践を読んで卒論に取り入れたいと感じたことが2つあります。1つ目は、特定の科目に固執しすぎず、科目横断的にひとつのことを考え続ける良さです。長期間にひとつのことを考え続けていくうちに、児童のもつ印象や興味がより深いところまで到達していると思いました。2つ目は、歌のもつ力を児童が実感しているところです。同じ沖縄というテーマの中で4曲を表現して、自分なりに感想やイメージを持ち、関心を高めていることが印象的でした。また、歌に触れる回数を重ねるごとに、自分なりに考えを深めている活動が、社会科にも必要なことだと考えました。